

第1回東濃西部広域ごみ焼却施設整備等に係る基本構想策定委員会 会議録

日 時 令和6年8月20日(火) 14:00~16:00
場 所 多治見市役所本庁舎2階大会議室
出席者 義家委員、吉永委員、青山委員、水野委員、山田委員、景山委員、
安藤委員、加藤委員、酒井委員、加納委員、金山委員
オブザーバー 下野東濃県事務所環境課長
事務局 《多治見市》高木市長、伊藤環境文化部長、山田環境課長、岩田
清掃事務所長、鬼頭環境課長代理、中島三の倉センター主査《瑞浪市》鈴
木経済部長、渡辺次長兼環境課長、三浦クリーンセンター所長《土岐市》
伊佐治市民生活部長、小栗次長兼生活環境課長、水野環境センター所長、
犬飼生活環境課環境政策係長《東濃西部広域行政事務組合》大前事務局
長、下藤係長、伊佐治主査《(一財)岐阜県公衆衛生検査センター》蒲池次
長、神谷環境調整監

議 事

(事務局) 出席委員数は11名。東濃西部広域ごみ焼却施設整備等に係る基本構想策定委員会設置要綱第6条第2項の規定による定足数を満たしており、本会議の成立を報告する。

1 東濃西部広域行政事務組合管理者 多治見市長 挨拶

2 委員の自己紹介

3 委員長及び副委員長の互選

義家委員が委員長に、吉永委員が副委員長に選出された。

4 東濃西部3市ごみ焼却施設の広域化について

(委員) 新施設完成までに期間を要するが、土岐市の施設はそれまで維持できるのか。

(事務局) 土岐市環境センターは3炉を有しているため、毎年1炉を大規模修繕している。そのため維持管理を委託している業者からは、想定外の事態が無ければ問題ない旨の回答を得ている。

(委員) 施設により8時間稼働と24時間稼働のタイプがあるが、違いは何か。

(事務局) 土岐市環境センターはストーカ炉で比較的燃焼温度が低いこともあり、8時間運転で停止しやすいことが挙げられる。ただし、いずれにしても24時間運転は効率的である。

- (委員長) 8時間運転から24時間運転に転換し効率化することも今回の広域化の利点である。
- (委員) 既設焼却施設は延命化工事により延命化可能か。また延命化する場合と新設する場合のコスト比較を行うとどうなるか。
- (事務局) 平均耐用年数(30年)は延命化を含むものであり、延命化し続けて使用することは困難と思われる。
- (委員) 用地選定について、山地か平地かによって余熱の活用方法や環境影響評価が異なると思うが基本方針はあるか。
- (事務局) 環境影響評価は、計画地とその周辺環境を調査するもの。地形や環境等により調査範囲が異なる。また、余熱の活用方法も計画地選定後、検討することが現実的と思われる。ただし、それらのことも含め用地選定の際にご意見をいただきたい。
- (副委員長) 各既存施設の年間稼働日数はどの程度か。
- (事務局) 多治見市三の倉センター 11ヶ月程度(1ヵ月程度補修期間)。瑞浪市クリーンセンター 200日～250日程度。土岐市環境センター 240日程度。
- (副委員長) 広域化することで、それらの停止期間に係るロスについても低減できると考える。

5 基本構想とは

- (委員長) 中間処理が具体的にどのような処理か説明を求める。
- (事務局) 焼却処理とその前工程の破碎処理などを意味する。
- (副委員長) 粗大ごみ等の資源系の広域処理を行うかについては、どの時期(早い・遅い)に決定する必要があるのか。例えば廃プラスチックは国から早期の分別が求められている。
- (事務局) 粗大ごみ等、市民が直接搬入するものについては、位置選定と並行して早い段階で方針を決定することが望ましい。資源については各市で処理することとしており、プラスチックの分別等具体的な事項は、新焼却施設の稼働を待たずに、各市が並行して検討を進める必要がある。
- (委員) 最終処分を各市がそれぞれ行う理由は何か。
- (事務局) 最終処分場を新設することは、住民感情により難しいこと、各市の最終処分場の状況を考慮し、焼却灰の最終処分は各市が処理量割合ですることとし、3市共同での処分場の新設は考えていない。

6 施設整備による価値の提案

- (委員長) 余熱利用の事例の施設の発電量は 1500kW となっているが、それはメガソーラー程度の電力量である。
- (委員) 事例の「施設K」は民間のものか。
- (事務局) 公開されている情報に明記されていないが、民間のものと思われる。
- (副委員長) 事例の「蓄熱材輸送」は、運搬車両が燃料等消費するため、トータルで考えると効果が薄い場合が多い。トータルでの効果を考えることが重要である。今回の廃棄物焼却に係る余熱利用も、施設休止中の対応（供給先のボイラー施設設置等）まで考慮する必要がある。また、余熱利用を望む企業を誘致しコラボレーションすることも有効である。
- (委員) 副委員長に質問。余熱利用について、市民の生活での利用や農業での利用等まちづくりの観点で考えることが望ましいが、どの程度の規模で考えるべきか。
- (副委員長) 地元の中小企業に利用してもらうことで地域の活性化を目指すことが現実的と考える。
- (委員) 廃棄物処理施設は迷惑施設とされ、山地に建設されてきた経緯があるが、有効活用を考え平地か山地か検討することが重要と感じた。
- (委員長) 近年の技術進歩により、これまでの「きたない」「くさい」施設から脱却している。ポジティブな施設として建設を考えていくことが重要である。
- (委員) 適地選定について、例えば山地、平地など、事務局の中で考えはあるか。
- (委員長) 合わせて、今後事務局から提示される資料はどの程度のものか。
- (事務局) 適地選定については、他施設の視察後に検討をすすめる予定。第4回以降の基本構想策定委員会で検討を行う予定であるが、大枠のゾーンを複数示しその中から用地を絞り込むことを考えている。土地には各種規制がある所があれば、そもそも建設不可能な所もあると考える。山か平地かの地形も含め、今後検討いただきたい。
- (委員) 余熱を有価物と考えれば、それらを活用し企業を誘致することも有効と考える。

7 令和6年度の開催日の調整

第4回の委員会は令和6年12月12日（木）14:00～に決定した。

第5回の委員会は令和7年1月22日（水）14:00～に決定した。

第6回の委員会は令和7年2月19日（水）14:00～に決定した。

8 その他

- (委員) 施設建設費 240～250 億程度とあるが、アクセス道路等含むか。
- (事務局) 他施設の建設事例を基に推計しているもの。アクセス道路等は含んでいない。
- (委員) まちづくりの観点から、市民が楽しめる施設となると良い。
- (委員) これまでの暗いイメージの施設から、子供たちも集う楽しい施設となると良い。
- (委員) 我々は、この委員会によりポジティブなイメージに変わってきたが、これを市民にどのように周知できるかが重要と考える。
- (委員) 各市の議員も含め、施設が町に必要な施設であることを知ってもらうことが重要。私の会社も焼却施設を有しているが、重要性を発信していきたい。

以上